



## 来日という夢の実現

アニメやマンガ、武道、歴史、食、その他にもポーランドでは多くの日本文化に触れることができ、結果として「日本に行く」という夢を子供のころから持っている人が多くいます。その夢を叶えるため日本語を学んでいるという学生も少なくありません。サマースクールはそんな夢を実現するために2010年から始まった非営利事業です。期間は約2週間で2019年までで計73名の学生たちが来日しました。

サマースクールは通訳のついた観光ツアーではありません。学生がポーランドで学んだ日本語を実際に使い、ホストファミリーと過ごし、日本を深く知るための機会です。そのため農業体験や学校訪問、祭りへの参加なども行います。また、学生は日本語を用いて各地でポーランド紹介も行っています。

今まで東京、千葉県白井市、静岡市、静岡 県吉田町。長野県坂城町、京都などに滞在し ています。

参加条件として以下3点の試験が行われます。

- ・初級以上の日本語能力
- 異文化適応能力
- ・日本語での発表能力







# ホストファミリーの皆様へ



## ポーランドの日本語教育環境



ポーランドには大学を含め60近くの日本語教育機関があり、約5,000人 が日本語を学習していると言われています。国立大学で日本学科があるの は、ワルシャワ大学、ポズナン大学を初め4大学です。2006年のワルシャ ワ大学日本学科の倍率は30.25倍であったことからも分かるように、日本 語はとても人気があります。学習者の年齢層も幅広く、子どもから大人ま で多くの学生が日本語に興味を持ち、勉強しています。

また、ポーランドでは欧州でも珍しく、年に2回日本語能力試験が実施 されています。欧州大陸で初めて、アメリカに次いで世界2か国目として 高校生日本語知識コンクールが行われたのもポーランドです。



### ホームステイについて



サマースクールで来日する学生達の9割が初来日です。そのため日本の 生活習慣について慣れていません。従って意思疎通において勘違いなどが よく起きます。それを避けるために以下のことをお願いしております。

#### (1) 家族の一員として迎えていただく

皆様のお宅に家族が一人増えたと思って、学生を受け入れていただきたく 思います。ホームステイは、日本の家庭生活、生活習慣等を理解してもら うことを目標としておりますので、お客様扱いをせずに、積極的に食事の 準備や後片付け、子供や孫の世話などの手伝いをさせてください。

#### (2) 意思表示ははっきりと

日本人特有のあいまいな表現や、遠慮、遠回しな言い方は伝わらないことがあるかもしれません。また、学生たちは短い日本での滞在を最大限に活用し、見識を広めようとしています。そういう意味では、貪欲に、(時にわがままに)したいことを口にすることがあります。その点を考慮していただき、ホスト側からもはっきりとした意思表示をお願いします。

#### (3) 生活のリズム

それぞれの家庭にそれぞれの生活のリズムがあります。夕飯の時間や就寝時間など、予め学生に伝えてください。ご家庭が受け入れ前から持っているリズムが狂わないような無理のないもてなしをお願いいたします。学生たちには帰宅時間などを前もって家族と話し合うように伝えてあります。また、待ち合わせ時間の変更などがある場合には事前にLINEなどで連絡を取るというルールにしています。それでもたまに道に迷って連絡をせずに帰宅が遅くなったり、時間が過ぎるのを忘れて買い物をしていたりといったケースがあります。問題があった場合は些細なことであってもためらわず引率にご相談ください。

#### (4) 家庭でお話しいただく言語について

学生たちの日本語能力にはばらつきがありますが、皆、基礎的な日本語を習得していますので簡単な会話はできます。日本語能力の向上も来日の目的の1つです。そのため積極的に日本語で話し掛けてあげてください。通じない場合は、やさしい日本語に言い換えて話してあげてください。ポーランドでは幼いころから言語教育が行われており、学生によって英語やフランス語、ドイツ語、スペイン語などの言語も通じます。

#### (5) 対面

最初は、"ようこそ"で気持ちは通じます。とっさに言葉が出なければ、「いらっしゃい。」の一言で、相手は安心します。まず、家族全員を紹介し、学生にもにも自己紹介をしてもらってください。

#### (6) 費用について

外出等で支払が必要になるときは、事前に誰が負担するのか学生と相談してください。本人が希望しているポーランドへのお土産などは、当然本人の負担であることを了解してもらい、支払ってもらってください。時たまポーランドのカードで支払おうとしたが使えなかったというケースがあります。その場合はとりあえず立て替えていただき、その後引率にご相談ください。ATMではお金が下せないが、郵便局ではおろせたといったことがよくあります。

#### (7) 家の中を案内

挨拶がすんで打ち解けたら、家の中を案内してあげてください。特に学生がお借りする部屋、トイレ、洗面所、お風呂場、食事の場所を詳しくお願いします。ポーランドでは湯船の中で体まで洗ったり、シャワーだけという学生も多いので、日本のお風呂の入り方はぜひ教えてあげてください。玄関で靴を脱ぐこと、エアコン、ウォッシュレット、和式トイレの使い方、畳の上でスーツケースを引きずらないなど日本人には当たり前のことが学生にとっては当たり前ではないことがあるので説明してあげてください。

#### (8) インターネットの使用について

ポーランドの家族への連絡に、スカイップなどでインターネットを使いたいと学生から要望があることが考えられます。学生によっては自分の携帯電話やパソコンを持参していることがあり、インターネットにつなぐためにパスワードを教えてほしいという要求があるかもしれません。そのような要望があった際、できる範囲での対応をお願いします。ただ、食事時間などにポーランドの家族や友達とインターネットを通じて話したりすることは失礼にあたりますので、注意してください。学生たちには家族といるときにスマホを使うのは写真を撮ったり見せたりする際に限り、個人的な用事では使わないように指導しています。

#### (9) 食事について

日本に来たのだから、純粋な和食を食べさせたほうがいいのか、それとも慣れないかもしれないからと洋食をお考えの家庭もあるかと思います。しかし学生のために改めて献立を考えていただくよりも、普段のまま、あるいは一品増やす程度でかまいません。また、アレルギーのある人や、ベジタリアンだという学生もいます。異国の生活によるストレスや疲れが出たり、どうしても和食が合わないといった学生もいるかもしれません。そんな際には、スーパーやコンビニに一緒に買い物に行き好きなものを選んでもらったり、時間があるときは学生にポーランド料理を作ってもらうのも良い方法です。

#### (10)過去に起きた問題について

今まで道に迷い、家に帰れなくなったため警察に駆け込んだり、ポーランドと違って家の周りに塀がないため私有地と分からずに侵入し、通報される。またはホストファミリーからお金を借りたまま忘れてそのまま帰国してしまったというケースがありました。サマースクール前に研修会は行っておりますが、その他にもこんなことが問題になるんだ!といったことが異文化が交差する環境ではよく起こります。何かお気づきのことがありましたら引率まで連絡ください。

#### (11) 引率との連絡について

メール、メッセンジャーなどがありますが、今までは主として学生同様 LINEを使ったやりとりをしています。可能な限り来日前に学生、そして引 率とLINEを交換していただけると助かります。

#### サマースクール紹介ビデオ

過去の記録動画が20本以上アップされているので参考までにぜひご覧くだ さい。

### https://bit.ly/3qAepDu